

# 愛教大の「授業」!

授業改善独自の工夫

ティップス集

愛知教育大学 教育創造開発機構  
大学教育・教員養成開発センター編

## 序 「授業改善」の共有をめざして

本書は愛知教育大学の授業改善を目的としたティップス(ヒント)集です。本書は平成17年度、18年度、19年度に行なった「教員による授業の自己評価」を基にして作られました。それぞれの年度の「授業改善への独自の工夫」という質問項目に答えてくださった内容を、文章を変えずにそのまま、テーマ別、年度別に整理したものです。

本書が生まれるきっかけは、編者のひとり大澤が、上記の自己評価の整理および分析の仕事に当たったことでした。順を追って読んでいっているうちに、このまま単に分析して総括するだけではもったいない資料だと考えたのです。そこには非常勤の先生方も含め、本学のあらゆる領域の先生方が自分の授業でされている「独自の工夫」が記されていて、それらのなかには本学全体で共有すべきだと思える実践が多数あったのです。

実際それぞれの年度の「教員による授業の自己評価」は、授業名を付して、センターのサイトに既に公開されていますが、授業改善の工夫だけを比較して読んでいくようなことはほとんどできません。それをするにはあまりに数が多いからです。ですから本書はそれを可能にするように、「授業改善への独自の工夫」に書かれたものだけを抽出し、カテゴリー分けして、その中でお互い啓発されるものを集めたものなのです。

「三人寄れば、文殊の知恵」と言いますが、本書は愛知教育大学の全教員に近い200名以上(非常勤も含む)の先生方の知恵の結晶です。しかし、いわゆる「授業改善ティップス集」のように、大学の授業の始めから終わりまで、手取り足取り改善のヒントを与えるものではありません。本書に集められたティップスは、むしろ一人ひとりの先生方が自信を持って提言している「改善の要諦」であり、そのような先生方が既に行っている「授業改善」の実践例でもあります。本書によって、既に自ら多くの改善工夫をなしている先生方が、他の先生方の実践からさらに多くを学び、愛教大の授業全体が益々豊かになって行くことを期待しています。

本書はいくつかの同趣旨のティップス集を参考に作られましたが、東海大学出版会の『授業をどうする！』に一番つよく影響を受けました。というのも、同書はUCB(カリフォルニア大学バークレー校)の優秀教員の授業改善意見をまとめたもので、本書の趣旨に一番近い本だからです。

挿絵を描いて協力してくださったのは、社会科教育講座の見崎恵子先生です。ご多忙中このために多くの時間を割いてくださいました。感謝の念に堪えません。

なお本書では、授業担当者名、授業名は一切省略しましたが、自己評価をお寄せいただいた先生方へは絶大なる感謝とエールを送りたいと思います。

編集代表者 大澤秀介

凡例

1. **囲み**で示されたカテゴリーは、編集者が勝手につくったものであり、先生方の実践例にそのようなカテゴリーが元々あったわけではありません。
2. ○で始まるゴシック文字の表題も読みやすさを考慮して編集者がつけたものです。
3. ・で始まる明朝文字の文章が先生方の書かれたものです。表記法を統一するために、箇条書きや改行を変えてありますが、「独自の工夫」の項目に書かれた文章全体を一字一句変えずに採用してあります。
4. 年度分けには意味があります。すなわち、17年度は教職関係科目の授業自己評価から採られ、18年度は専攻・コースの専門科目、19年度は全学共通科目の授業自己評価から採られました。この選択がなされたのは、学生による「授業評価アンケート」そのものが、このように三年間に分けて実施された経緯があるからです。

## 目次

序 「授業改善」の共有をめざして .....	1
目次 .....	2
第1章 コミュニケーションの工夫 .....	3
第1節 学生と教員のコミュニケーション .....	3
第2節 学生間のコミュニケーション .....	7
第2章 授業方法一般での工夫 .....	8
第1節 方法の工夫 .....	8
第2節 特定の領域に力を入れる .....	11
第3節 学生の自発性 .....	12
第4節 機器の使い方 .....	13
第5節 教員側の努力 .....	15
第6節 授業外学習 .....	17
第7節 学生の誘導 .....	17
第8節 評価の工夫 .....	18
第9節 テキスト類の工夫 .....	19
第3章 授業内容の工夫 .....	20
第1節 基本の追及 .....	20
第2節 わかりやすさの追求 .....	24
第3節 豊かさの追求 .....	27
第4章 実験・実習の工夫 .....	30
第5章 教育現場に密着した工夫 .....	32
第6章 初年次教育的提言 .....	34

## 第1章 コミュニケーションの工夫

コミュニケーションの工夫は教育の場としての大学の授業の中でもっとも大事なことであることは、多くの授業改善ティップス集が強調しています。本章に採られた各先生方の工夫は、本当にみな頭の下がるものですが、少人数教育が主流の本学ならではのものも多くに見受けられます。本章では、「学生と教員のコミュニケーション」と「学生間のコミュニケーション」に分けて提示しましたが、もとより各先生方の文章にはそのどちらも含まれている場合もあります。また他のカテゴリーの下に分類したほうがふさわしいと思われるものもあるかもしれませんが、コミュニケーションの優れた工夫がある場合には、編集上の理由からコミュニケーションの工夫の一つとして採らさせていただきました。

### 第1節 学生と教員のコミュニケーション

#### 受講者の丁寧な観察

(17年度)

##### ○学生の名前を把握する

・指名等で、学生の名前をできるだけ把握し、日常の授業において、いかに努力をしているか、顔と名前と、学生の前向きな姿勢をできるだけ見落とさないように努めた。

(18年度)

##### ○一人ひとりに配慮する

・ゼミである為、毎回学生のメンタル面に配慮。

##### ○性格を知る

・学生の1人1人の性格。学力をよく知ること。

##### ○理解度を確かめる

・学生の理解度を確かめる。理解のさまたげになっていると思われるつまづきの発見に努める。又、そのつまづきの解消に努める。

##### ○学生の表情を思い出す

・授業終了後、こちらの説明に対する学生の表情を思い出し、次の授業の説明に役立っている。

##### ○ランダムに質問する

・授業中、なるべく多くの質問を学生に与え、ランダムに指名して答えさせている。これは教科書の練習問題のようなものだけでなく、定理や公式の説明の途中においても、復習的な内容について問いかけを行っている。これにより学生たちの理解度や学力を知ることができるばかりでなく、個々の学生との接点を持つことができる。

(19年度)

##### ○授業中に巡視する

・必ず巡視の時間を設けている。これは学生の理解の程度を知るアンテナである。またメールによる課題内容についてのアドバイスを細かく行った。



## レスポンス(コメント)・カードによるコミュニケーション

(17年度)

### ○レスポンス・カードを使い、学生の理解を確かめる

・レスポンス・カードに質問や意見を書いてもらい、学生の理解を確かめている。グループ・ワークのさい、討論にくわわったり、学生から質問・意見を聞くことで、授業の内容や方法の改善を心がけている。

### ○コメント・カードで質問を受け付ける

・出席の際にコメントカードを配布して、質問をうけつけ、それに対して回答することで、少しでもわかりやすくしようとしている。

### ○授業感想文を何回も書いてもらう

・半期中に数回、授業感想文を書いてもらい、モチベーション・アップやスキル・アップに繋げるようにしている。・レジュメは丁寧に、きれいなものを作る。・オフィスアワー以外にも、質問には積極的に応じる。・メーリングリストを活用して、丁寧な情報伝達を心がける。

(18年度)

### ○コメント・カードに回答してフィードバックする

・コメントカードと呼ぶ出席確認・感想・質問カードを配布し、寄せられた質問に対し、回答することでフィードバックを行っている。本来、次の授業で回答すべきであるが、授業準備や校務で回答が遅くなってしまったのは遺憾である。

### ○提出物の中に意見スペースを設ける

・学生の提出物において、講義への意見を書かせるスペースも常にさくよう心がけた。なるべくインタラクティブな授業にするべく、今後ウェブの活用なども検討していきたい。

### ○感想・質問の書ける出席カードを使う

・講義の際、学生に出席カードをかねて講義に対する感想・質問などを書いて毎回提出してもらっている。その内容から、講義の進め方・取り扱う内容などを検討したり、改善できるものはすぐに反映できるようにしている。できる限り学生の声をくみ取るように心掛けている。

### ○質問カードを学生に整理してもらう

・質疑については、学生が質問カードに質問事項を書いて、座長(学生)がそれを整理しながら論文をめぐる意見交換を進めるという形式を取り入れている。質問カードを作成することで、全受講生の授業への参加状況が把握できる。

### ○大福帳を使う

・大福帳によるコミュニケーションと授業の理解度・疑問点の把握、理解をたすけるためのパワーポイント利用など

(19年度)

### ○コメント・カードへの回答の仕方

・授業のコメントカードなどでの質問についての回答。前年まではプリントに記入し配布していたが、これでは研究時間を確保できないし、大人数科目一つのみしかコメントカ

ードのみ毎回回答することができず、多くの科目は学期末間際に回答することになる。それを避けてできるだけ全科目でリアルタイムに授業にフィードバックさせるために口頭で回答するようにした。

### ○独自の授業改善アンケートをする

・大学で実施する授業改善アンケートとは別に、学期終了時に個人で独自のアンケートを行い、筆記形式で学生からコメントをもらっている。それをもとに、次の学期の授業を改善している。

## 提出した文書を添削して返却する

(17年度)

### ○授業感想文に添削指導する

・毎時間の内容の意識調査から授業に入っている。・学生による授業感想文に添削指導している。・理科の楽しさを味わわせている。

・毎時の感想文を書いてもらい、朱書きを入れて、形成的評価を試みました。そして短い出会い(半期ずつの講義)の中で、学生の変容を心がけましたが、むずかしく、もうすでに凝り固まってしまっている学生も感じました。まるで、植木鉢の植木が手を加えられず、伸び放題伸びきってしまい、少々の手入れ方をすると、折れてしまいそうな学生もいます。とても可愛そうに思えました。

(18年度)

### ○レポートを迅速に採点して返却する

・授業が一方通行にならないように、レポートを課すこと、および、個々のレポートを迅速に採点して学生に返却することを心掛けている。

### ○ふりかえりにコメントして体験をシェアする

・体験学習ではフィードバックが大切なので、受講生同士のシェアリングをていねいにやることと、毎回、必ずふりかえりを提出してもらった。このふりかえりには必ずコメントを

つけて次回の授業で返すことを続けた。

### ○学生発表に対してアンケートをとる

・発表の良否を相互に批評できるように、発表方法(板書・声の大きさ等)や発表資料について毎時間アンケートを行った。回収した用紙は、担当した学生に返し教育実習の参考にするように助言した。

(19年度)

### ○レポートはコメントを付けて必ず次週に返却する

・受け取ったレポートは、可能な限り、次回の講義までには目を通し、コメントを付けて学生に返すようにしている。

## 質問時間、教員と学生の話し合い時間の設定

(17年度)

### ○授業開始前あるいは授業後に学生と話す

- ・授業開始5分前には出向き、学生と会話する用具の準備と片付けのとき授業の要望や感想を学生から聞く。
- ・授業前ないし授業後に、一部の学生から、授業の感想や要望を聞く。

(18年度)

### ○常に学生が質問できるような体制を整えている

- ・平日は、いつでも学生が質問できるように体制を整えている。また、質問や相談は、電子メールでも受け、勤務時間に関係なく、夜間であっても、迅速に返信するように心がけている。

### ○自由に質問できる雰囲気を作る

- ・できるだけ自由に質問できる雰囲気を作ること。質問に対しては、出来るだけ的確に答えることと、最後まで答えを教えるのではなく、自力解決をするための道筋を示すことを心がけている。

### ○学生に良く話しかける

- ・よく話しかけることでしょうか？授業中に二者択一の質問を良くします。Yes か No かの質問の回答に手を挙げない場合はヤマカンでいいからと授業への参加を即しなるべく関心を引く努力をしています。その風景は他の先生に見られるとちょっと恥ずかしいですが。

### ○授業外でも学生との接触を心がける

- ・各自の報告の準備過程において、授業外で昼休みやその他の時間を使い、文献や資料の調査のアドバイスを等を行い、またEメールのやりとりを含めて、日常的な接触を心がけた。

### ○コメントする学生をあらかじめ指名する

- ・自発的な討論が少ないので、発表に対してコメントする学生をあらかじめ指名しておき、そのコメントが他の受講生の討論への参加の呼び水になるようにしている。

### ○遠慮なく意見を述べさせる

- ・授業の進め方について気づいたことを遠慮なく言うように、学生に言ってある。学生もあまり遠慮せず自分の意見を述べる。

(19年度)

### ○問いかけによって発言する機会をつくる

- ・学生への「問いかけ」。学生が授業に興味を抱く「動機付け」としての発問。授業中にできるだけ学生に発言する機会を与えること。

## 第2節 学生間のコミュニケーション

### グループ活動の中でのコミュニケーション

(17年度)

#### ○グループ活動の中で学生相互のコミュニケーションを図る

・50名以上のクラスの場合には、グループ活動をいれ、学生相互のコミュニケーションに気をつけている。  
・アンケート結果から、学生の意見を取り込むように心がけている。

#### ○グループの討論に加わる

・グループ・ワークのさい、討論にくわったり、学生から質問・意見を聞くことで、授業の内容や方法の改善を心がけている。

#### ○授業感想文をグループ討論の資料とする

・感想文の活用については、毎回、授業後に感想文を提出させ、重要な意見・疑問について次回の授業において印刷・配布し、コメントをしている。数回については、全員の感想文を印刷し、グループ討論の資料とした。また、ビデオ、文献を読んだのグループ討論、調査学習の発表など、6～8人のグループに分けて討論等を行っている。

(18年度)

#### ○個人の作業とグループの作業をクロスする

・グループ活動のみならず、個人の作業とグループの作業を適切にクロスして、その相互作用で課題が明確になるように時間配分を行っている。また、毎年、シートを改良し、わかりやすく、取り組みやすいものを用意するように努めている。

#### ○教員の問いに対してグループ単位で検討させる

・教員が用意する問いに対して、一人一人で考えさせるだけでなく、グループ単位で検討することにより、他の人はどう考えるかを知る機会とし、なおかつ自動的に授業参加

が促されるようにした。重要な問いは、各授業で1つまたは2つと厳選した。

#### ○学生座長が質問用紙をもとに討論を進める

・討論時において全ての学生・教員が質問事項を紙に書いて、座長(学生が担当)がそれをもとに討論を進める形式をとっている。これにより質問事項を各自がまとめる力が身につく、座長をすることによって討論形式を取りまとめる力を養成できると思われる。

### eラーニング・システム等でのコミュニケーション

(18年度)

#### ○学生との面接をWeb上で予約できるようにする

・学生が面接を受けるための時間を、Web上で予約できるように、独自に予約システムを開発し、運用している。学生からは、家庭などからも課題が完成次第、予約できるため、好評を得ている。

#### ○授業資料をWeb上で参照できるようにする

・毎回の授業資料及びサンプルプログラムなどをWebで参照できるようにしている。質問事項などは、電子メールでも受け、勤務時間に関係なく、夜間であっても、迅速に返信するように心がけている。また、学生が面接を受けるための時間を、Web上で予約できるように、独自に予約システムを開発し、運用している。

(19年度)

#### ○課題だけではなく、アドバイス等もメールで行えるようにする

・すでに述べたように、メール等を用いて学生と相互のやり取りをするようにしている。また課題等だけではなく、必要であればその他のアドバイス等もメールで行っている。これらは、こうしたやり取りがメールで行えることを示すこと自体が、授業の目標の一部である。

## 第2章 授業方法一般での工夫

授業方法の工夫はほんとうに多様です。また、方法の工夫なのか、内容の工夫なのかを区別するのは実はむずかしいことです。方法と内容が相互に影響し合うのは言うまでもありませんし、したがってここでの分類も編集上の理由からなされたものにすぎません。また、各節への分類やティップスとしてのまとめも、それほど厳密なものではありません。むしろどちらとも言えない生の声が、現実に授業をしている先生方の誠実さと苦闘を伝えているのではないのでしょうか。これは類書にはない本書独自の特色ですし、これほど多くの工夫がなされているというのも本学ならではのようです。

### 第1節 方法の工夫

#### しっかりした授業計画を立てる

(17年度)

##### ○シラバスを明確かつ適切にする

・シラバスが意図・スケジュール・目標において、明確かつ適切になるよう努力している。

##### ○各教員ごとに授業内容を精査する

・各教員ごとに、授業内容の精査・プリントの作成・板書の整理・視聴覚機器の活用などを行っている。オーソドックスであるが、もっとも基本的で重要な改善の工夫であると考ええる。

##### ○毎回「授業予定」を配布し、流れの中の位置づける

・毎回、「本日の授業予定等」を配布し、全体の流れのなかで本日の授業がどのような位置にあるのかを明示した。

(18年度)

##### ○毎回の講義を全体の中で明確に位置づける

・「天文学の基礎」を扱っているが、「基礎」といっても様々なものがある。講義している基礎的事項の内容に関しては、大学における天文コースの標準的なテキストに沿うものを選んでいるが、半年の講義・演習を通じて、一つの柱(「天体までの距離の測定」)を立て、それに沿って展開した。毎回の講義が全体の講義の中で何らかの位置づけがなされているため、講義で扱った内容を整理しやすいだろうと考えている。中間/期末テストの直前に過去のテスト問題を配布し、テスト対策をさせた。演習の一部として位置づけているが、テストを意識してか、真剣に取り組んでいるようである。

##### ○1回ごとの指導案を作成する

・15回の計画を授業前にきちんとたて、1回ごとの指導案を作成する。・コースウェアなどを積極的に利用し、学生にリソースを提供する。・1期を基本的な単位として、改善を繰り返す。(1期の中での大幅な改善はしない)

##### ○課題を系統的に配置する

・系統的な課題の配置(小課題をふまえて大課題を作成するなど)・課題についての学生間相互評価の機会の設定・実習形式、及び、演習(討論)形式の多用

##### ○学生観を明確にした上で授業を組み立てる

・授業は、学生と教員、教材によって成り立っているため、学生観を明確にした上で、授業を組み立てるようにしています。今回、初めての授業担当であったため、リアクションペーパーを活用し、学生個々の考えや状況を理解するよう心がけました。

(19年度)

##### ○オムニバス授業の場合も教員ごとに構成を明示する

・初講で、5回全体の内容や評価方法について知らせている。・講義のみでなく、グループでの討議や代表による発表など多様な形態を取っている。・ビデオテープを見せたり、資料を配布したりしてできるだけ具体のイメージを抱きやすいように努めている。

## わかりやすい授業をする

(17年度)

### ○実験の機会を多くして、興味を引き出す

・この授業の受講生は2年生の文科系の学生であるため、高等学校、大学での自然科学の科目の学修が十分とは言えない。このような学生に少しでも興味を持ってもらえるように、丁寧に解説を行うとともに、なるべく多くの実験の機会を設定している。

### ○各専攻に合わせて、課題の難度や時間数を調整する

・各専攻の雰囲気や能力に合わせて、難度を変えてみたり、ひとつの課題に対する時間数を調整して、学生の達成感を味わわす。

(18年度)

### ○総合的に基礎知識の定着を図る

・「わかりやすい授業」を自分なりの目標としている。また、救急処置は実際の手技も勿論大切であるが、必ず理解し、覚えておかなければいけない基礎的な知識があるため、講義科目である本授業では、それらが確実に身につくよう配慮した。具体的には、パワーポイントを用いて解説すると同時に、空欄を設けたプリントを配布し、授業を受けながら、それらの空欄を埋める作業を加え、知識の定着を図った。

### ○学術的で馴染みにくい内容も丁寧に授業する

・教科内容が学術的で馴染みにくい面があるため、ていねいでわかりやすい授業をすることを心掛けている。・学生の積極的授業参加を促進するため、文献やインターネットを活用して作成した資料に基づくプレゼンテーションを課している。

### ○ややとどいくらいに丁寧に説明する

・できるだけ分かりやすくていねいに説明している。ややとどいくらいに。また分からないところは、遠慮せずに質問にできるように言っている。よく質問にくる学生にはきちんと理解していて成績も良い。

### ○プレゼンテーションの資料をわかりやすくする

・プレゼンテーション資料を出来るだけわかりやすく作るよう工夫している。講義の進め方を、講義資料とプレゼンテーションに即して行い、話の前後関係を理解しやすくすることに心がけている。

### ○学生の反応を見て提示方法を工夫する

・学生の反応を見て、毎回、授業内容の提示の方法等を分かりやすく工夫している。授業においては、課題などなるべく自由選択の機会を与え、自分が興味のある内容、得意な内容などを見つけて取り組めるように配慮している。また、学生が意見を述べる機会を多く設け、他の人の考えが分かるような授業にしている。毎回、授業の感想を含め、独自に授業評価を実施しているが、その中で「他の人の意見が多く聞けたこと」がこの有意義なことの一つであるという感想があるので、それを大切にしている。教師からの一方的な授業ではなく、学生一人一人が「考える」授業であり、「考える力をつける授業」を目指している。

### ○聞く立場に立って説明を工夫する

・自分自身が同じトピックを勉強した際に、理解しにくかった点、説明を聞く立場にたつてわかりにくかった点を中心に、説明を心がけている。

## 変化に富んだ授業運営

(17年度)

### ○セメスター毎の評価を基に、授業・教材を変化させる

・何回かしている授業であるし、独自に自由記述のアンケートを取ったりもしている。・セメスター毎の評価を基に、授業・教材のバリエーションを増やしたり、改善したりしている。・細々した事については、種々の大学授業改善やFD関連の本も参考にしている部分もある。

### ○話とビデオを相互に繰り返す

・①話した内容についてリンクしているビデオ10～25を見て再度自分なりに考える。②グループ(5～6)で話し合い、グループの中でレポートを行い、討論する。

(18年度)

### ○教員は絶えず新しいネタ(情報)を仕入れるべき

・授業は一種のパフォーマンスと考えている。いかにして学生の気を引き、その理解を深めさせ、考えさせるかである。従って、いつも新人芸人の様でありたい(教員は絶えず新しいネタ(情報)を仕入れるべき)

### ○集中講義でも演習的側面を持たせる

・4日間の集中講義でもっとも効果的な授業になるよう、一方的な講義だけではなく、適宜、演習的な側面ももたせるよう工夫しています。

### ○講義でも友人同士で教えあう演習形式を取り入れる

・今回の講義は再履修者のためのものだったので、ある程度知識の蓄積はあると判断し、講義形式でなく演習形式にした。友人同士で互いに教えあいながら学習させるように工夫した。また受講生の大半が教員志望であったので、黒板で問題を解かせてそれを全員の前で説明させることも行った。

### ○座学だけでなく、観察したり触ったりできる機会をつくる

・授業は口頭説明だけでなく、パワーポイントなどを用いて図や写真を多用することで理解が大幅に進む。90分間の座学だけではなく、室内であっても出来る限り生き物を丸ごと感じてもらえるように、生きた動物や標本などを持参し、自分の目で観察したり、触ったりできる機会を作ったが、好評であった。

### ○課題を数回ごとに変えてゆく

・期間を通して単調な授業展開にならないようにする。たとえば臨書課題を数回ごとに変えていく。種類の違った筆で書かせる。用紙も種類や大きさを変えて多様な表現形式を試みさせるなど。

## 第2節 特定の領域に力を入れる

### 復習に力を入れる

(18年度)

#### ○高校科目を復習する

・宇宙の法則が、簡単な物理法則から導ける事を紹介した。本来だと「物理学」および「数学(微分・積分)」の基礎知識が必要であるが、高校で「物理学」を履修していない学生のため、高校物理から該当する部分を解説(復習)しつつ、この講義の目標に向けて誘導していった。レポートを課す事で、学生が自分で演習問題に取り組み理解が定着できるように配慮した。

#### ○補修的内容を加える

・数学の基礎知識が不十分な部分があったので、数学の補習的内容を加えた。

#### ○毎回、前回までの復習から授業を始める

・毎回、授業の最初に前回までに学習したことに軽く触れてから、その日の学習項目を示すようにする。講義形式の場合、教師の一方的な授業にならないよう学生に考えさせ発言させたりする機会をできるだけ与えたり、学生の理解を確認するための問いかけを行うようにする。また、重要なポイントのみを書いたプリントを配布し、講義を聞いてそこに必要事項を書き込むように指示し、講義に集中させる。

(19年度)

#### ○今まで習ったことの意味を理解したり、深めたりできるようにする

・学生が高等学校までにおいて学習した数学の意味の理解をしたり、深めたり、また別の観点や視野を持つことについては工夫をしている。学生がそのような意識付けをしながら、応用もできるような授業の流れをつくることを考えている。

### 記述力の育成に力を入れる

(18年度)

#### ○とにかくたくさん書かせる

・工夫とは言えないかもしれないが、とにかくたくさん書かせることを中心として行なっている。学生には、やや負担となっているかもしれないが、成果となって表れている点も重視したい。

#### ○数学でも、話す、書くといった表現能力を重視する

・数学教育における数学的な価値を認識できることとともに、話す、書くといった表現能力を重視した。

#### ○記述式答案の書き方を学習させる

・中間試験では答案に正解を付して返し、記述式答案の書き方と文章表現を学習させた。その結果、最終試験では平均が大幅にアップするが、教育大学であれば日本文のスキルアップを充実させてほしい。

### 第3節 学生の自発性

#### 自発的な勉学を促す

(17年度)

##### ○主体的な取組を確保できる内容やスタイルをとる

・基本的に学生の主体的な取組みを確保できるような内容かつ授業スタイルであることに、最大限の注意を払っている。なお、この方法の場合、教員が、適切な段階でその議論や思考に対して枠組みや輪郭を与えたり、また一定の評価を施したりすることも重要であると考えている。

(18年度)

##### ○その場で考える習慣を身につけさせる

・「学修の基礎体制」の修得を目指しています。この授業では「その場で考える(後で、ゆっくり考えようという姿勢の排除)習慣」を身につけることを、自己の経験に基づいて解説しています。

##### ○勉強・研究の方法についてもアドバイスする

・学生の実力・興味を見極め、適切に指導できるように努力している。勉強・研究の方法についてもアドバイスし、(将来的には)自立して研究が進められるように指導している。

##### ○自主的・自立的に取り組めるプログラムを設定する

・いかに学生が調べることに自主的・自立的に取り組めるようなプログラムを設定するかに毎年工夫をおこなっている。たとえば、オリエンテーションにおいて授業の全体像を細かく提示する、そのなかで毎回課題を明確化する、レポートの書き方を具体的に指導するなど。

##### ○自発的に考え、調べることを厭わないような課題を出す

・線形代数1演習は講義で学習したことに関する知識を確認、整理する等の役割があると考え、毎回テスト形式のスタイルをとった。出来る限り自発的に学生諸君が考え、調

べることを厭わないよう、出題には配慮した。また、難しい問題に対しては、学生の出来具合により適時ヒントを与え、模範解答をあたamarcaから押し付けないよう配慮した。

##### ○演習授業において課題にコミットさせる

・演習授業に関しては、受講生がいかに課題にコミットするか、というところに成果が分かれるポイントがあると思う。逆に指導する側から言えば、いかに各学生にあったテーマを探させるか、そのテーマにコミットさせるか、というところに比重がかかってくる。しかし、そうするための方法論というのがあるわけではないので、結局、毎回手さぐりで、各学生との対話の中から、その学生にあった指導法を模索していくしかない。ということで、「こういうことを実施している」という明確な方法を提示することができないのだが、とにかく指導者として、なるべく幅広い教養を身につけ、視野を広め、個々の学生の興味を引き出すようなコメントができるように努力しているつもりである。

##### ○問題意識を持ち、自身の観点で解決する姿勢を身に付けさせる

・知識の伝授を主におくのではなく、学生が自身に関する事象に問題意識を持ち、それを自身の観点で解決する姿勢を身につけられるようにということを念頭において授業を行っている。

##### ○自発性に関してあまり力みすぎない

・特別にはないが、その学科に燃えて入学した学生もいれば、致し方ない理由で入学した学生もいるということを常に忘れないようにしている。それぞれのスタンスで自分なりに考えて取り組む姿勢を養えればよいぐらいの気持ちでこちらが力みすぎないようにするのが大切だと感じている。

(19年度)

##### ○体験に基づく気づきを重視する

・できるだけ多くのプレー経験をさせるために、施設を少人数で使用させた。個々に、細かく技能チェックするよりも、体験に基づく気づきを重視したくて、プレー回数の増加を意図とした。

## 学生に対する報奨制度

(18年度)

### ○質問で点数加算

・適切な質問をした学生に特権として、点数を上乗せ。・現場で役に立つ「常識の間違い」シリーズ。

### ○出席が有利になる試験問題

・とにかく、具体的に材料を提示して、そこから授業を展開させることに力を入れている。また、授業に出席した学生ほど試験の回答率がよくなるような問題(授業に出席してビデオなどの素材をみた学生ほど回答率が上がるような問題)の作成に工夫している。試験は、自筆ノートのみ持ち込み可としている。

### ○あめとムチ

・忙しい学生がやる気を起こすような授業をすること。個々に合った曲を相談して決めるようにしている歌声を出すことはそう簡単なことではないので、それぞれの弱点を指摘したりうまい所をほめたりして、やる気を起こすように努めてますが、自分でいかに練習してくれるかが課題です。ムチとあめを上手に与えること。

### ○「ほめる」

・毎回の個人チェックで、具体的に技術上の問題を指摘する。上達が見られた時に”ほめる”。

## 第4節 機器の使い方

### 黒板などの教室機材の活用法

(17年度)

### ○坂書が読み取れるか注意する

・とにかく前年度の評価で、板書が読み取れないという評価が多かったので、これを是正するように努めている。また、授業の内容とのかかわりで、実践力を育てるようにと実習を取り入れるなどしている。

### ○坂書のかわりに資料を配布する

・板書は時間がかかり、学生も黒板を写していれば理解したと勘違いすることがある。そのため、板書すべきことは、資料として配布して、授業では理解することに重点を置いた。

(18年度)

### ○プロジェクターと坂書をうまく組み合わせる

・パソコンの画面をプロジェクターで投影しながらの説明と、ホワイトボードを用いた説明をうまく組み合わせることを試みている。

### ○あえて坂書して学生に写させる

・最近の学生はノートを取らない傾向があるので、可能な限り板書を行い、学生が写せるように試みた。また、大事なところではノートを取る間を作るように心がけた。

### ○坂書では図や色を工夫する

・板書については、図を多く書くこと。色分けを効果的に行うこと。(たくさんの色を使えばよいというものではない。)説明については、該当学年に応じた言葉の言い換えを注意している。(ただでさえ難しい数学を必要以上に難しく感じさせないようにしたいと考えているため。)

## さまざまなメディアを活用する

(17年度)

### ○Webから優れた教材を探す

・マルチメディア教材については、Web サイトから優れた教材を探し、それを学生に提示して見せ、興味をもってもらうように工夫している。しかし、見せるだけでどの程度効果があるかは疑問である。授業資料の公開はおおむね好評であり、今後も充実してゆく。

(18年度)

### ○映像的理解の達成を優先する

・この授業「微分積分 II」の主な内容は一変数関数の積分学である。高度の計算の技術の練磨よりは、計算結果の具体的な意味や映像的理解の達成を優先している。資料を配布したり曲線の作画などを提示している。

### ○時間配分を工夫する

・ビデオ、新聞などを使い、視覚からも理解を深めるため、時間配分にもっと工夫することが課題である。

### ○言葉以外の手段を多用する

・ビデオだけでなく、図表・地図なども使うようにし、言葉以外の手段を多用するようにしている。

### ○ビデオ全体を作品としてみせる

・ビデオを中心に組み立てた授業であるが、初期はビデオの必要な部分を抜き出して見せて、説明を加えていたが、次第にできる限りビデオ全体を「作品」として見せることにした。そのため教員の「社会背景説明」の時間が少なくなるので、配布資料でおぎない、なるべく多くの知識を提供できるよう教員なりに努力している。

### ○スライドは要点を押さえた図や表にする

・プリントに長々と文章を載せるのではなく、要点を押さえた図や表をスライドにして提示した。さらに、スライドと同じ図や表を電子的なファイルとして授業前に配布し、授業時間内外に自由に閲覧できるようにした。

### ○ワークシートを用意する

・可能なかぎりワークシートを用意して、段階的に策定作業が進められていくように工夫しているが、このシートの理解をいかに深めていくのかという課題がある。今後さらに改善していくべきと考えている。

## eラーニング・システムの利用

(17年度)

### ○すべてをデジタル化する

・すべての教材をデジタル化しており、それを学生は自由に e-Learning システムでいつでも参照できる。評価についても同様である。

(18年度)

### ○OHP(授業用Webサイト)にあげる

・より詳細なプリント(ハンドアウト)HPに上げる。付加資料もHPに上げる。プリントの解答もHPに上げる。

(19年度)

### ○効果的な授業作りに時間をかける

・前述したが、ウェブサイト作り、授業リハーサルの実施、マルチメディアを使用した楽しく効果的な授業作りに多くの時間を費やしている。

## 第5節 教員側の努力

### 教員による授業後の反省

(17年度)

#### ○半期の最後に反省すべき点を明確にする

・時間があるときは、必ず授業の最後に内容についてのコメントとともに、授業の批判や改善の要望を聞いてもらうようにしている。反省すべき点が具体的にわかり、また誤解が生じているときにもそれをとくことができるので、授業を改善していくうえで役立っている。また、半期の最後に、授業の総括として、いくつかの項目についてコメントを聞いてもらうことにしている。例えば、おもしろかった授業やおもしろくなかった授業とその理由、授業の進め方やスタイル、教員、クラスのメンバーなどについてである。これらについての、具体的なコメントをみると、授業の受け止められ方とともに、反省すべき課題、授業の問題点が具体的に浮かび上がってくるので、次回に改善すべき点を把握できる。今回の授業でいえば、「教員による多岐にわたる問題提起は、今後自分たちで調べたり、考えていく上で重要であるとは思いますが、それぞれに対して、また全体として自分なりの枠組みをしっかりと整理しきれなかった。もう少しじっくり考え合いたかった。」という意見がいくつかみられ、途中で、また各自のプロジェクトでそのような総括がしきれなかったようであり、来年度の反省点になると考えている。いつも最後にやっているの、その授業自体を途中で改善できないため、今後は授業の途中でも行う必要があると考える。

(18年度)

#### ○授業後の反省点を書きとめる

・1時間の授業のなかで「学生が気づいたことは何であったか」「疑問に感じたことは何だったか」を、教員側が授業後、簡単に書き留めるように心掛けている。また、1時間の授業において、教員と学生の相互作用によって「ヤマ」と「オチ」ができるように、またストーリーがつくられるよう工夫している

#### ○講義ノートを自己分析する

・講義ノートを作り、毎回できるだけ授業後に自己分析等をそれに書き加えるようにしている。

#### ○毎時間後、達成満足度と学生の反応を見ながら反省する

・独自かどうかはわかりませんが、毎時間の自分の達成満足度と学生の反応を見ながら、つねに反省をして改善したほうがよいところは改善するようにしています。その改善点は、配布資料の内容、説明のやり方、時間配分などです。

(19年度)

#### ○反省点を考慮しながら、次年度の授業を行う

・どの点が「授業改善」なのか曖昧なのですが、毎回(毎年)授業中に気付いた反省点を考慮しながら、次年度の授業を行うようにしています。それが時間の使い方であったり、授業の内容であったりします。ですので、独自の工夫というのは反省点を生かすことだと思われるのですが、そこは他の先生方も同様だと思いますので、独自ではないかもしれません。

## 他の教員の授業を参考にする

(17年度)

### ○他の教員と授業についてコミュニケーションをとる

・授業を研究のフィールドとして捉えること 授業は、どのような教授方法やツールが学習に効果的かを研究するフィールドであると考えている。このように研究の一環として授業を捉える事で、授業のなかに新しい教授方法を積極的にとり入れ、教育にも研究にもメリットのある授業が展開できる。・他の教員と授業についてコミュニケーションをとること 学生の成果を積極的に他の教員に公開し、授業について教員同士のコミュニケーションをはかる事で様々な意見を取り入れることができる。・毎回の授業で学生に感想を書かせ、良いものは授業に取り入れること 今回の授業ではないが、別の授業で毎回授業内容の質問や授業に対するコメントを書かせている。学生のコメントには毎回目を通し、次の授業でコメントと教員の回答をまとめたものを学生にフィードバックする。全てを受け入れるわけではないが、良いものは取りいれたり、試して見たりを繰り返すことで教員も学生も納得できる授業ができる。

### ○セミナーに参加する

・学生の感想文と全作品の写真データの収集を行い、自分が実施した授業について分析し、文章にまとめるようにしている(「キミ子方式と大学生」教育実践総合センター紀要第8号、2005、pp.189-196)。実際の教育現場でも積極的に授業を行い(稲沢市立片原一色小学校、岡崎市立常磐南小学校、高浜市現職教育、韓国晋州教育大学校での教員研修等)、子どもや教師のキミ子方式についての反応をまとめた(「キミ子方式と小学生」教育実践総合センター紀要第9号、2006、pp.53-60)。また、キミ子方式教え方セミナーに参加するなど教授法について学んだり、全国的な規模で教える者同士が情報交換したりする機会を持つように心掛けている。

(18年度)

### ○他講師の授業聴講

・英語教育関連の学会参加・他講師の授業聴講

### ○授業を公開する

・何と言っても授業公開し、そして学系でこの授業について発表した。そのことはわたしの、そして受講生のモチベーションを高めたと言える。授業テクニックについては、今のわたしが持っている最高のものをつぎ込んだつもりだが、それ以上のことはできない。

### ○常に授業内容・方法を話題にする

・担当教員間において、互いの授業内容・方法を常に話題にすることで、各教員の授業改善への意識を刺激し合っている。

(19年度)

### ○授業のアイデアをシェアする

・学生からの授業評価を謙虚に受け止め、改善すべき点は改善する。他の先生と交流を持ち、授業のアイデアなどをシェアし、良いと思ったものは、積極的に取り入れる。

### ○しばしば話し合い、授業見学も受け入れる

・同じ科目・部分(ジェンダー部分)の他の担当者と、授業内容や受講生の反応についてしばしば話し合い、また授業見学も受け入れることにした。テーマが現代的課題であり、授業で使用しうる素材(映画やテレビ放映、新聞・雑誌記事等)を日常的に収集し、教材化をはかる努力を常にしているが、「試行」の連続となってしまうこともあり、失敗も避けられない。個人では限界があり、他の担当者との協力、情報の共有が重要となっている。

## 第6節 授業外学習

### 授業外学習への便宜を図る

(17年度)

#### ○授業外個別指導でペースの差を吸収する

・受講生の各自のペースに差があることから、授業時間以外の時間を利用して、個別指導するようにしています。

#### ○発表準備のために個人指導する

・授業は受講者による発表(1人30分の報告)を中心に進めたので、その報告の準備過程において、各自2回ずつ(2週間前と1週間前に各1回)、昼休みや4限後などの時間を使って、個人指導を行った。また、他の受講者の報告についても、感想及び質問を毎回提出させ、授業の最後の時間を使って、各自が寄せられた質問やコメントに答える機会を設けた。これらの方法で、授業外の勉学と、授業への参加の積極性を促進することができたと考えている。

#### ○希望する時間に製作できるようにする

・授業時間内だけでは制作が完了しないので、受講生が希望する時間にも制作できるようにしました。授業時間外にもできるだけ学生からの相談に対応できるようにしました。

#### ○自宅学習での方法を指示する

・授業時間内にこなせない課題を細かく自宅学習での方法と実践の方法を指示し、効果をチェックしながら、個人個人で指導方法を変えている。

#### ○実施企業や展示会を見学させる

・非常勤のため、学生たちの日常的に会話をする機会がない。これを補うため、LMSによる授業資料の提示やBBSを多用している。また企業人などを招いての講演や質疑、

実施企業への見学会を実施している。また各種展示会等への参加見学を推奨し、レポート等で紹介・評価をしている。

## 第7節 学生の誘導

### 学生発表の方法の工夫

(17年度)

#### ○座学型から参加型へ

・工夫していること①座学型から参加型へ 講義一辺倒からの脱却(例)「この一冊」今まで自分が影響を受けた本一冊選ぶ→グループで紹介し合う→グループ代表が全体の場で発表→感想を出し合う※人数が少なければ、全員発表ができ、一人の発表時間も長くとれる。②作業学習の導入参考例にしたがって教材分析表づくりをさせる。③ねらいを明確にした資料づくりより作文と不十分な作文を比較させる。

#### ○ワークショップ導入

・常に新しい話題を入れて行っています。社会科は現実の社会からの教材が命です。また、受講生の気づきを絡めるワークショップ的な試みも導入しています。

#### ○大テーマからサブテーマへ

大テーマは予め決め、それにそって前半は講義するが、学生が調べるサブ・テーマについてはできるだけ学生の希望や意見を尊重する。その糸口になる問題を、前半の講義で行うようにしている。学生の発表については、クラスの学生仲間の質問・意見・感想を重視し(毎回クラス全員に書いてもらい、発表者がそれを読んで考え、最終レポートに反映させる。2回発表の時は再度工夫する等)、共同学習、相互教育が進むようにする。

(18年度)

#### ○発表の順番をランダムにする

・この授業では学生に回りもちで発表させているが、あらかじめ順番が決まっていたの

では、授業準備にムラができるとの考えから、発表の順番はそのつどランダムに決めるようにしている。こうすることにより全体的に予習しなければならなくなり、授業にも興味が増すようである。

### ○発表前に個別にアドバイスする

・発表のために必要な参考資料・文献を各人にアドバイスのこと。また、発表前に個別に質問を受け付けること。

## 学生同士の相互学習

(17年度)

### ○理解の進んだ学生にヒントを作ってもらう

・途中理解が進んでいる学生には、他の学生が理解するためのヒントを作ってもらったことがあったが、この作業には多様な表現があり面白い試みになったと思う。

(18年度)

### ○学生同士の相談で理解度を促進する

・授業態度の良い学生が多いので、なるべく学生同士で率先して相談を行ない理解度の促進させるように行なった。実践が重要と考え、なるべく学生個人に演算を多くやらせるように努めた。

### ○形式を決めたディベートをする

・常時、形式を決めたディベートを行っている。

## 第8節 評価の工夫

### 評価に関する工夫

(17年度)

### ○グループ発表での聴衆コメント

・研究発表グループの発表(内容、方法)について、聴衆グループに評価シートを作成・提出させ、それらを列挙したプリント作成し、次回に聴衆のコメントとして返している。

(18年度)

### ○成績基準を明確に示す

・成績基準を明確に受講生に示し、採点後の答案に成績をつけて返却している。評価分布を示し、当然、採点結果への問い合わせも受け付けている。

### ○学生同士の相互評価

・発表会においては、学生に(学生同士の相互評価のための)「評価表」を配布し、内容、表現、論理性、着眼点、専門性、などの項目について A ~ D の評定をつけさせた。自分が審査員になることで、クラスメートの発表に注意深く耳を傾け勉強(耳学問)する事になる。一回目の発表会においては、高校の地学の内容に沿ってテーマを選ばせ調べさせた。高校の地学分野を取り上げることで、地学分野として最も基礎的な学習内容の確認を行った。二回目の発表会においては、日常的な興味を中心から、地学分野関連のテーマを挙げさせた。各種の啓蒙書や科学雑誌でテーマを探していた。そのテーマをグループで調べる事で、各学生の得意・不得意に応じて相補的に勉強する事ができ、教師が想定していた以上に深いレベルの発表内容が得られた。受講者の意見を聞くように心がけている。

・課題の相互評価のやり方(4回)を少しずつ改善していった。最後の最終課題の相互評価では、質問時間を明確に示したことで、学生同士の相互評価がうまく働いた。

## 第9節 テキスト類の工夫

### 教科書使用法の工夫

(17年度)

#### ○自主的教材づくり

- ・上記したとおり主に三つの工夫を位置づけてきた。●自主的教材づくり＝独自の授業ノートの作成と配付 ●意見交流の重視(学習グループの話し合いと全体討論の活用)
- 学習グループによる授業参加活動の導入

(18年度)

#### ○内容、説明のメリハリ

- ・テキストの理解が深まるよう、内容の取捨選択、説明のメリハリ付けを行っている。

#### ○記述の詳細な(新しい)教科書を使う

- ・基本的にその道の専門家(プロ)になるべき人材の教育として、教員となり、そこで将来見直すことができる記述の詳細な(新しい)教科書を使うこと、できるだけ新しい話題を新聞記事やインターネットから選んで資料として提示すること(その際、できるだけ新しい記事や法律、あるいは答申全文のような「そこから必要な内容を読み取る」資料を供与し、授業だけでなく将来の自主学習のために役立つものを選んで)、原則として期末試験(と再試験)を行い、そのための自主学習の機会を与えた上で、プロとして当然身につけるべき内容の十分な理解を図ることなど。

#### ○購入しない学生への対処法

- ・教科書・参考書を指定したにもかかわらず、殆どの学生が、教科書などを購入しない状況を踏まえ、また、ビジュアル的に学生に理解しやすくする目的で、できるかぎり、要点を液晶プロジェクタによる画像化を行い、さらに、その縮小コピーを全学生に、その講義ごとに配布した。

#### ○章末問題に取り組みせる

- ・教科書の章末問題に積極的に取り組むよう指導し、難しい問題については個別に議論を行うようにしている。

#### ○参考資料の手作り

- ・手作りの参考資料(手本や練習用の各用紙)を毎時間使用している。

## 的確な資料・データを提示する

(17年度)

### ○モデルを与える

・プレゼンの様子を見て、あまりかんばしくなかったのが、プレゼンの模擬ビデオを見せることによって、モデルを与えた。この結果プレゼンがよくなった。

(18年度)

### ○受講生の関心を引く資料

・できるだけ受講生一人一人と話をするとともに、的確な資料の提示ができることを普段から心掛けている。本授業では、特に受講生が興味や関心が持てるような映像資料や写真資料を多様している。今回のアンケートの中に、パソコンを使って文字を打ち込むことが大変だとあったので、打ち込む時間を長くしたり、打ち込みやすいデータに変えるなど、今後改善したいと考えている。

### ○切り貼りではなく、自分で作成

・できるだけ授業プリントは切り貼りなどではなく、文書を自分で作成(図形も含む)することを心掛けてきた。

## 第3章 授業内容の工夫

授業方法の工夫の中でもすでに内容に関係するものが見られました。本章に採られた内容上の工夫は、ある一定の視点から見たときに特に眼を引く実践例です。その視点とは、基本の追求、分かりやすさの追求、豊かさの追求という視点です。基本の追求では、考えること、概念の理解、具体性などの本当に基本的なことに関する工夫が採られました。分かりやすさの追求では、学生のレベル、平易さ、話題性などの内容上の工夫が採られました。豊かさの追求では、基礎と応用、教材の適切性、教員や学生の実体験などの、授業をより豊かにする内容上の工夫が採られました。

### 第1節 基本の追及

#### なぜかを考えさせる

(17年度)

### ○考える間をつくる

・どの講義中でも学生が自ら手を動かして考える間をつくり疑問を持たせ質問を誘う運びになるよう、常々心掛けている。授業中の看視と学生とのコミュニケーションは、学生に寄り添い導いていくための生命線であるため、常にこれらを怠らぬよう努力している。

(18年度)

### ○疑問点をあげて考えさせる

・いろいろの事実を提示し、疑問点をあげて考えさせた上で展開すること。なぜかを考えさせる導入が大事だと思い、そのように努力してきました。

### ○なぜそれを学ぶことが必要なのかを説明する

・なぜそれを学ぶことが必要なのかをきちんと説明すること。社会調査の実施したり結果を解釈する際に、いかに知識が必要かを、教員自身が行っている事例をもとに理解してもらおうこと。受講者自身にとってもどのように役立つのかを説明すること。以上の観点から、授業を組み立てている。

### ○すべてでは話さない

・講義の要点をまとめておき、それに従って講義を行う。また全てを話すのではなく、学生に考えさせるような問題等を残しておく。

## 概念理解、授業目標理解に工夫を加える

(18年度)

### ○まず全体を俯瞰する

・いきなり細部を詰めるのではなく、もっと漠然と大まかに外側から音楽の全体を俯瞰するよう促すよう努めている。一人でやらせるにも限界があるので、それを見極めた上で手本も示すが、与えすぎないようにも注意している。

### ○高い見地から、日常生活との接点を重視する

・ともかく教科書だけにはとらわれず、高い見地から日常生活との接点を重視することを心がけ、基礎的なことはくどいほどいねいに行うよう心がけている。また、講義を聞いているだけでなく自分で式をフォローするとか、問題を解くなり、またできるだけ質問に来ることをすすめている。学生の質問内容は非常に重要で、学生の理解しにくい点、誤解しやすい点が明らかにされる。ともかく、どんなことでも分からなかったら、分かりにくかったら、恥ずかしがらずに研究室までやってきて「質問」をすることをいつもすすめている。

### ○達成目標と達成レベルを提示する

・プリント類を増やしたり、過去の事例などを提示することによって、達成目標と達成レベルを提示し、それによって、プレゼンテーションのレベル向上が見られるように工夫し

た。

### ○教育、生産活動とのつながりを意識させる

・授業の始めに、いつも授業内容とは直接関係ないかに見える、教育問題のトピックスや科学技術に関する話題から入り、この授業が教育あるいは社会的な生産活動と繋がっていることを意識させ、授業に内容に興味を持って貰おうと努めた。

### ○毎回、内容と目的を確認する

・授業目的、特に一回一回の授業内容、目的を確認し、その目標に向かって授業を進めた。また、授業内容が直接的、間接的に社会との結びつきの中で理解出来る様努めた。

### ○新しい概念の役割や関連を説明する

・新しく出てきた概念については、この話がどこで役に立ち、今までに習ったこととどう関連するのかは必ず説明するよう心がけている。

### ○カルチャーショックを与える

・配布したペーパーの数を増やすこと等が「改善」だというのであれば、その手の改善を重視したことはない。学生の意欲を引き出すために、「カルチャーショック」を与えるべく、「君たちの常識は政治学の非常識だ」と驚かすようなコメントを付けるように努力はしている。

## 具体的内容を重視する

(17年度)

### ○「子ども理解」への具体事例

・とにかく全てにおいて「子ども理解」が図られるということを重視し、具体事例や子どもの多様な作品提示をして授業が明解なものとなるように努めている。

### ○児童の生活実態や課題

・残念ながら教科の性格上、当初から興味を持って履修したいと考える学生は決して多くないのが実情である。そのような中で、「教科の意義」というような理論から入っていてもなかなか理解を得られないのではないかと考え、まずは児童の生活の実態を把握し、生活上の課題を考えるとところから入っている。また、ゲーム教材をグループ単位で開発し、ワークショップ形式で発表し合う体験型の授業を取り入れている。

(18年度)

### ○テレビやラジオなどから例をとる

・いかに日常の日本語音声を身近に感じられるかが大切なので、現実の音声をテレビやラジオなどからとってきて、聞いてもらうようにしている。

### ○具体的な事例を身近な問題として認識させる

・できるだけ具体的な事例を取り上げ、身近な問題として認識できるように工夫しました。また、グループ演習で、課題について話し合う中で多様な価値観や考え方の存在に気づいてもらい、どのような判断によって法律や基準が作られ、運用されているのか、といった点について理解してもらうように心がけました。

### ○複雑な行為を、例を出して説明する

・今後とも、カウンセリングという複雑な行為について、例をいくつも出しながら、なるべくわかりやすく説明していきたいと思えます。

### ○文化的背景の説明に時間を割く

・使用しているテキスト(シェイクスピア作品)が、現代英語で書かれているものではないので、演習に際しては、特に現代英語との違い、風習の違い、キリスト教的・ギリシャ神話的ヴィジョンの解説などに時間を割いたつもりです。

### ○実演して説明する

・紙や板書等では分かりにくいところも、実際に動きを見せると良く分かる。そこで、自作ソフト等を数多く使用した。それまでプリントとスライドで教えていた部分でも、実演して説明したほうが分かりやすい場合は、可能な限り、自作ソフトを準備した。

・中国の飲茶文化について講義しているが、できるだけ身近なもの意識してもらうため、実際に茶を淹れたり、茶葉を見せたりしつつ、講義を行っている。

### ○自身の実体験を援用する

・自身の実体験や視聴覚教材を援用して講義に具体性を持たせるようにしている。

### ○図版・実物の提示に心がける

・書誌学は情報媒体としての本のあり方を考える。そのことを意識して、できる限り図版・実物などの提示を心がけている。

・できるだけ多く実物資料の持ち込み、校庭内自然観察などを組み込んで実施している。

### ○具体から実践につなげる

・食は、身近な問題であるので、具体的に話すようにした。理論がわかっても行動変容がなければ実際に理解したことにはならないと考えている。学生が自身の食生活を見直すように、そして実践につながるように細やかな対応を心がけている。学生が、現場に立ったときにどう指導していけばよいのか、各自が考えられるような投げかけを行なうようにした。

### ○新聞記事を活用する

・新聞記事を活用し、実生活に縁の無い進化学について、社会とのつながりを理解させるようにした。

(19年度)

### ○ビデオ学習で興味・関心をもってもらおう

・社会問題に対してよりいっそう興味・関心をもってもらおうよう、ビデオ学習の機会を作っていますがこれは、学生からの反応が良かったです。また、どうしても理論的な部分だと敬遠されがちなので、具体例や裁判例を用いて学生がイメージしやすいようにしています。一回の授業で一つのテーマを取り上げ、問題状況の把握、学問的な視点からの検討、自己の意見を持てるようにするための素材の提供の3つを意識して授業構成をしました。どのテーマを扱っていても、憲法の内容に照らしてどんな問題点があるのか、自分ならその問題をどう考えるのかが考えられるように気をつけています。

### ○具体例で興味・関心・学習ニーズを掘り起こす

・中国語の授業として単なる語学の学習にならないように、中国の社会情勢・経済・文化などの動きに即し、学生個人が持つ興味・関心・学習ニーズを掘り起こすことです。例えば、日中経済・文化などに関する中国語の記事・中国の風土人情・中国映画などを取り入れ、学生の関心を持たせながら、学習の意欲を高めていくことです。

## 自分の、あるいは最近の研究成果を活かす

(18年度)

### ○最新の情報を収集する

・学生たちが興味関心を持てるように、出来る限りプロジェクターを使用して、実際の写真を見せながら説明をした。また、特に公衆衛生学は、政治、経済など法律・施策に基づく学問なので、最新の情報を収集して最新の施策について学生に教授するように工夫した。

### ○研究成果の実物を教材として使う

・研究成果の実物を見てもらうことへの教育効果を期待し、北海道からハスカップの果実を持参し、試食してもらった。また、その場で糖度計を皆に使ってもらい、興味の喚起につながるようにした。質問用紙に答える形で理解度を測りつつコミュニケーションの機会を作り、講義への参加意欲が湧くように努めた。

### ○研究分野の最新の動向を伝える

・授業の準備を毎回よくすること。限られた時間をよく利用すること。可能な限り、研修によって得た授業内容と関連した最新の情報や学会などにおける研究分野の動向も伝えること。質疑応答などを含めて学生とのコミュニケーションを重視すること。

### ○自分自身の臨床経験を素材とする

私は障害児治療教育センターに所属しており、そこには多くの障害児が来所している。この自分自身の臨床経験を講義の主要な素材としている。障害のある子どもの姿、世界を、学生たちにできるだけ生々しく生き生きと学生たちに伝えようと努力しているが…学生たちが何かを学ぼうとする強いニーズ、目の輝きがないと授業はうまく展開していない。授業は教員と学生がうまくマッチすると、とても面白いのだが。

(19年度)

### ○海外研修で得た最新情報を提供する

・語学と文化との関係を重視し、中国の言語理論について紹介し、映像による確認も実施している。また、海外研修などで得た文化や社会に関する最新情報を提供し、新しい授業内容を取り入れるように工夫している。

## アピールしないものは話さない

(18年度)

### ○現役の学習者として話す

・やはり、教え手がおもしろいと思うことを伝えなければ、学生は興味をもってくれませんから、自分自身も常に現役の学習者であり、の先輩として、後輩を誘導する水先案内人であるという前提に立ち、新鮮な情報をわかりやすく伝えたいと思っています。

### ○教師が面白くないものは話さない

・教師がおもしろくないと思うようなことは、授業でしゃべらない。

### ○学生が興味を持つ素材を使う

・現在の学生が興味を持つ素材や媒体で授業資料を考えている。

## 第2節 わかりやすさの追求

## 相手の学生に合わせた内容

(17年度)

### ○相手の学生を知る

・私は他大学での保健体育の授業、地域での運動指導などもやっております。例えばある対象者を相手に体操指導をする場合、バックグラウンドが全て異なる人々を相手に集団指導を行なうので、全ての皆さんに満足いく指導をするのは容易ではありません。最初に相手のことを知ることが指導の際には必至です。大学での授業でも同じだと思います。私は最初にアンケートを取って学生さんの興味や既知度を知ろうとしますが、それでも初めの何時間はお互いの探りあいがあります。相手を見てから授業内容を考え直しながら進めています。90分15週の授業は長いようで短く、途中でアンケートを取ってそれに対応するのは少し難しいです。

### ○内容を学生に少しずつ合わせる

・授業内容を学生に少しずつ合わせることで、より丁寧に話を進めること。練習プリントを実際に解かせて、これをみさせつつ展開すること。(挙手して発表することはないため)

(18年度)

### ○内容について学生の意見を聞く

・1回目の授業時に、授業内容についての学生の意見を聞き、学生が興味を持っている内容なども出来るだけ、授業内容として、取り入れようとはしている。

### ○出発点を学生に認識させる

・学生たちが、自分の現在の考え方を認識することを、出発点におくことに努めた。そのためには、一定の問題にたいし、学生たちが議論をし、それに対する自分の考え方や他の人の考え方を認識するようにした。そのうえで、問題にたいする多様な見解を示し、講義で提起する新たな視点を、より理解できるように工夫した。

### ○課題を学生に合わせて調節する

・学生の興味・知識・技術などに応じて、適宜課題を調節する。学生自身が手を動かして知識などを身に付けることができるようにする。

(19年度)

### ○毎年、学生の興味ある領域・分野を探し出す

・セミナーについては、毎年学生のテーマに関する興味異なるため、興味のある領域・分野を探し出すことに時間をかけている。

### ○学生の先入見を打ち破る

・心理学を、幅広く正確に理解してもらえよう、知覚心理学や認知心理学、学習心理学など学生にとっては心理学とは思っていなかった内容を重点的に教えるようにした。

## 身近で面白く平易な話題

(17年度)

### ○できるだけ身近な現象を

・高校での物理は難しく取り付きにくいという印象があるので、できるだけ身近な現象を取り上げ、高校で物理を受けていなくても理解できるよう、面白く平易な内容となるよう意識している。それでも難しいと感じ、興味が持てない学生が何人か出てくるのは残念なところである。

(18年度)

### ○「不思議」をネタに「なるほど」と思わせる

・数学や物理学を駆使して、(実際に行くことができない)天体の内部構造や進化の様子を理解させる。地上で実験できないのに、ここまでわかるのは驚異である！と思わせたい。ゼミにおいては、話の筋道が論理的となっているかにこだわり、学生達に「なるほど！」と思わせるように誘導を試みている。今年度は、学生に恵まれ上手く授業が運営できたが、今後とも上手く運営できるか、その年度の学生との信頼関係、その学生の力量を正しく見抜く観察眼だと思う。今後とも学生とのイイ関係作りに配慮して行きたい。講義として設定した学習内容とは別途に、日常生活に見られる「不思議」をネタに科学談義を行った(というより、脱線と言うか、そうになってしまいがちだった)。学生達が当たり前と思っていた事柄の中に、意外と知らない科学を発見して、興奮していた。科学ネタは単純で、「赤い月(赤い満月が東の空に見えるがなぜ?)」「原子力発電所」「電子レンジ」などなど。

### ○部分ではなく全体を経験させる

・学生が興味を持って自発的に取り組んでいけるような題材を工夫している。また、部分的ではなく、作物栽培の全般(種まきから収穫)が経験できるような題材を選んでいる。

### ○時代は古くても興味の持てるもの

・古典漢語(所謂「漢文」)はどうしても敬遠されがちであるので、内容的に時代は古くて

も学生に興味の持てそうなもので、なおかつ中国の古典文化を学ぶのに意味のある題材を選ぶようにしている。

### ○身近な問題と関連づける

・講義内容の難易度を下げることと同時に学生にとっての身近な問題を提示しつつ、より具体的な倫理的問題を扱うことにする。

・高等学校までの授業でほとんど取り上げられていない分野であるため、学生の興味関心が高められるような内容を心がけており、身近な問題と関連付けた授業を心がけている。

(19年度)

### ○マジックを実演する

・受講生の学習意欲や満足度を高めることを目指し、ほぼ毎回、環境と関連付けて化学マジック実験を演示した。

## ホットな、話題性のある内容

(17年度)

### ○ホットな話題

・テキストに頼ることなく、毎回、視聴覚教材(ビデオ等)や資料を活用するように心がけている。というのも、社会福祉の構造改革が急激なので、テキストでは追いつかず、学生たちにはもっともホットな話題を、わかりやすい資料として提示し、これを理解させていきたいと考えているからである。時折、授業等の感想や意見を聴取するカードも配布し、学生の反応等を確かめているつもりである。

### ○導入に時事問題

・学習によって学習効果が向上するように工夫している。また毎時の導入に時事問題を取り上げ、多様な視点からの問題提起をすることで、社会問題に対する関心を引き出すようにしている。

### ○用例にも話題性のあるものを

・国語科教育Aは必修であり、専門外の学生が受講していることで、常に「日本語」に対する興味を持てるように、用例なども話題性のあるものなるべく出せるように心がけている。現場や実社会で役立つものを取り入れることを工夫している。

(18年度)

### ○現地の新聞を使う

・この授業については、「イギリスの今」を考えられるように、最新のイギリスの新聞を授業中にプリントで配布して、教科書のテーマや課題のテーマと関連付けるようにした。歴史的な事象に対する基本的な知識や関心がない学生のことを考えると、現状ではこのような形で授業を進めることが最良であろう。

### ○最新のガイドラインに合わせる

・後期の担当科目の救急処置・実習は、2005年度に救急蘇生ガイドラインが改正されたのに準拠して授業を進めた。テキスト等の記述が旧ガイドラインの基準のままの箇所が多々あり、その都度修正をしながら教授した。

### ○ニュースを積極的に取り入れる

・常に最新の研究を紹介できるように、また、できるだけ学習内容がわかりやすくなるように、教材や実験の課題を適宜差し替えている。また、最近のニュースなどを積極的に取り入れて解説をするよう心がけている。

### ○近未来のあり方を追求する

・福祉のあり方が根本的に変化していく転換期であり、こうした状況に対して、受講生と問題意識を共有したり、論争したりすることを心がけている。そのために毎時間、資料を準備し、これを深めていながら福祉の基本的な理念を理解するように努めている。

### ○現代社会から歴史を振り返る

・現代社会にも影響を与えている文化的事象について、歴史的経緯を解説するため、当時の資料の提示、AV資料の駆使など、様々な媒体を使って、正確な知識の伝授をするよう、心がけています。

### ○記録資料を活用する

・像資料(記録映像、映画)を活用した。同時代資料(歴史等)を活用した。

### ○オーソドックスな視点とタイムリーな話題を共に提供する

・英米文化に関する様々な事象について、学生個々の興味関心に沿った演習をすべく、トピックおよび課題図書を選択を工夫し、オーソドックスな視点とタイムリーな話題を共に提供するよう、心がけています。

(19年度)

### ○現在社会の出来事を

・できるだけ現在の社会で発生している出来事を紹介し、教科書の内容と比較検討し、自分で学問的に考える力をつけられるように工夫して授業を行った。  
・とにかく問題意識を持たせること。高校までの知識が非常に浅く、ほんとうは国際社会には非常に理解困難な、広範な問題があることを自覚させること。

### 第3節 豊かさの追求

#### 基礎的内容重視

(17年度)

##### ○句読点を重視

・国語の基礎は句読点理解にあると言っても良い。句読点を曖昧にしないよう心がけている。また文章内容をできるだけ絵画化させている。

##### ○難しいと思う事でも挑戦させる

・理科の場合、物理を嫌っている学生にでも物理を教えなければならない。その学生に対して、物理のおもしろさを教える工夫は自分なりに持っているつもりである。レベルを下げるのは簡単であるが、果たしてそれでいいのかと思う。難しいと思う事に挑戦し、理解しようとする姿勢があまり見られない。学生の顔色を見ながら、簡単なことしか教えないとなったらそれこそ大学の存在意義が危うくなります。授業をしていて思うのは、愛教大の理系の学生は、理科の基本である「単位」や「科学史」に対する認識がほとんどない。さらに、高校での丸暗記の知識を最後まで押し通し、洞察力や思考力を極力使わないようにしている。理科をさほど好きでもない愛教生が理科の先生になろうとしている現状をどう打破すべきかを考えています。

(18年度)

##### ○基礎があって始めて応用がある

・この3年前期の「健康相談」という演習科目は、3年後期の「健康相談活動」という実習科目のための、基礎知識を身につけさせるという位置づけにある。そのために、カウンセリングや教育相談の基礎知識の習得にこだわった授業をしてきたが、このあたりが学生には十分に受け入れられにくかったのではないかと感じる。基礎があってはじめて応用があることを理解してもらえたかどうかは、後期開講の「健康相談活動」での評価を待つしかないと思っている。

##### ○類題で練習を繰り返す

・授業開始に問題を解かせること、それも同じ問題を何週にもわたって解かせること。  
・できるだけ基本的なところから導入し、自然に身につくように類題で練習を繰り返した。習熟度を見ながら、例題、練習問題を選んだ。

(19年度)

##### ○重要事項を歴史的に把握させる

・日常生活における数理事項について、歴史的に把握させることは大事である。「正常な判断力」を養うことを教育目標として、もっと多くの資料を調べ準備することが大事である。又、その資料を精選整備することも必要である。

#### 課題追求

(17年度)

##### ○課題追求で能力を高める

・課題追求型の授業として、自身の成長に気づき授業を受講してよかったという感想を述べる受講者も多いが、それは、彼ら自身が、受講者相互でのコミュニケーション能力を高め、他者との関係の中で自身の能力を高めているためと考えている。

(18年度)

##### ○学生に自己の課題を明確にさせる

・自己の課題を明確にしつつ、これを論文の組み立てに反映していくために、幾度も推敲を重ねていくが、各自の研究のモチーフを大切にしつつ、この過程に個別に対応していくように努めている。

##### ○製作物のサンプルを示す

・製作物のサンプルを提示し、加工作業の参考となるようにした。過去の経験から、提示物なしの状態では授業を開始すると、学生たちの製作物は大変貧弱なものとなっていた。今回は、風力発電機を題材としたものづくりであったため、いろいろと工夫する要素が明確になり、授業内容が少し改善されたと思う。

## より適切な教材

### (18 年度)

#### ○自作の教材で授業を効率化

・市販の教則本は記述が多すぎて要点を絞りづらく、分かりにくい。そのため教材はすべて独自に作成したものを用いている。ゆくゆくはこれらを集大成し、推敲を重ねて冊子にまとめることができると考えている。現段階でも音大でも 2 年かかる内容を半期で消化している為、自作の教材(プリント)は授業の効率化に非常に役立っていると自負するところである。やはり「詰め込み」感は否めない。しかし、授業で取り扱う内容はすべて必要なものであるため、「難しい」と思ってしまう学生が多いのであろう。通年化できないかという気持ちはやはりある。しかし、それも難しい状況であることもわかるため、より効率のよい授業のために教材開発に邁進するよう努めたいと思う。

#### ○様々な種類の補助教材

・手作りの配布資料。新聞記事や雑誌、写真、マンガなど授業内容に関係するさまざまな種類の補助資料を用いると、学生もとっつきやすいようなので…

#### ○教材開発に学生と取り組む

・新しい教材開発を学生と共同して取り組むことで、学生の学習意欲を高めるようにしている。

#### ○総合的視点を獲得できる資料

・総合的視点で解釈していくには、教養(生活知、社会知)や知識が要求される。この感想を書いた学生のように、教養や想像力、感受性の乏しい学生がいることもたしかである。そのため、資料を多く準備することを心掛けた。

#### ○学生に合わせた独自の資料

・独自の資料を作成し、学生の理解を助けることに利用している。(学生に合わせた内容をその都度考えて作成する)

### (19 年度)

#### ○学生の理解度に合わせてプリントを変更する

・○毎回、自作のプリントを用いて授業をおこなった。学生の理解度や進度に応じて、プリントの内容を変更した。○授業中に、学生が自分自身で考える時間をつくるようにした。○新しい知識をただ次つぎと紹介するのではなく、基本的な「知識の定着」を目指した。各回の授業内容は異なっているが、つねに同じ基本に立ち返れるような構成にした。

#### ○演習実験をする

・演習実験など、できるだけ直感的、定性的に理解できる内容にするよう留意した。

#### ○新聞情報を学生の意思決定に役立たせる

・学生が求めている情報、資料を提供したり準備したりしている。授業日に近い新聞に掲載されている内容(情報)を、肯定的も批評的にも使用し、学生の興味・関心ならびに意志決定に役立たせている。学生が求めている情報、資料を提供したり準備したりしている。

#### ○関連記事を探して多読させる

・多読をさせる:テキスト以外のものも読ませる。→テキストで取り上げたテーマに関連する記事を英字新聞・雑誌・インターネットなどから探す。各自が選んだものを自宅でしっかり読む。語法や意味の分からない部分は赤線をつけ提出する。→後日、私が授業でまとめて解説し、理解を求める。

## 内容についての教員側での修練や話し合い

### (17 年度)

#### ○教員自身が常にリフレッシュ

・少しでも多くの文献を購読し、常に問題意識を高めておきたい。  
・常に新しい情報・知識・考えを私自身に導入し、常に学生に対しフレッシュな内容を扱っていること。

### ○関連授業について、教員同士で話し合う

・総合演習Ⅱという授業のあり方について、総合演習Ⅰとの関係や教育実習との関わりなど、教員同士で話し合いを続けている。

(18年度)

### ○たえず問題意識を更新

・たえず、こちらの問題意識を更新している。また現代中国を理解するヒントを与えようと心掛けている。

### ○自分の専門を深める

・専門である生理学の研究を進めることでより深い知識を身につけることが、教育にも繋がると考える。

### ○実地研修で最新情報を獲得する

・中国文化や中国社会に関する最新情報などについては、実地研修などで獲得し、授業内容に反映させるべく努力した。

(19年度)

### ○同グループ教員とのカンファレンス的な Meeting をもつ

・授業準備の為の情報収集にエネルギーを注ぐ。同グループ教員とのカンファレンス的な Meeting をもつこと。

## 学生の体験・実践を重視する

(17年度)

### ○上演することを目的としてすべてを体験する

・身体表現の授業では、幼稚園や保育園で実際に劇を上演することを目的として、上演のための交渉や劇づくり、準備など学生が全て行うようにしている。子どもとのふれあ

いも可能になり、基礎的な表現のための技能練習も意欲的に行うなど主体的、能動的な取り組みができるようになっていく。

### ○体験から人と人を結ぶ力を得る

・学生の発想と教師の主体的個性的な発想を大切に、学生が生きる授業の創造に努力している。・学生が具体的な事実とかかわり、体験し、理解し、再び問いかけ、思考し、行動あるいは創造していくその過程を通して、人と人とを結ぶ力を育むようにしている。

### ○実践経験から指導力を得る

・身体とボールとの関わりで、できる学生には簡単な技術でも、できない学生(運動嫌い、女性など)を中心に、実技をとおして、実際にいろいろな技術(蹴る。止める。運ぶなど)を積極的に体験してもらい、できなくても、たくさんボールを操作するように工夫している。その実践経験の中から、小学生にボール運動領域を指導するのに必要なヒントを、できなくてもいいから習得する支援になることをねらいにしている。実際には、学生の意欲との関係でうまくいかない場面が多くあるが、あきらめずに実践している。

(18年度)

### ○実践力が身に付く内容

・実践例・事例をなるべく多く取り入れ、授業内容がより理解しやすくしている。また、現場で役立つ実践力が身に付くよう絵本・手遊び・触れ合い遊び等を多く取り入れるようにしている。

### ○経験の交換(発表会)により理解を拡げる

・1年生前期の授業であることを意識し、理論と具体事例を組み合わせることで学習内容への理解を深めたいと考えた。またフィールドワークを実施することにより、経験を通して理解を深め、それらの経験の交換(発表会)により理解を拡げる努力をしたと考えた。

### ○作った作品は必ず上演

・教材の吟味、PCの駆使作った作品は必ず上演させる。自らの作品が音に鳴るという体験を必ずさせるようにしている。音大では譜面の世界で終わってしまい、演奏されることがないというケースが少なくない。

(19年度)

#### ○体験させる授業

・実物を見せる授業、体験させる授業を工夫している。野外実習や博物館実習なども取り入れている。

#### ○身体活動を通して実践し、刺激する

・身体活動を通して、フィジカルに知的好奇心を満たすことと人間性の育成・他者との共有を、各運動課題を通して実践し、刺激するよう心がけています。

#### ○当事者的な実感的理解・思考

・第三者的・評論家的な知識獲得のみの授業ではなく、学生自身が自らの体験で語らずにはおられないような当事者的な実感的理解・思考等を大切に授業に心がけた。

## 第4章 実験・実習の工夫

実験や実習はすべての授業で出来ることではありませんが、受験重視の高校までの授業との違いを学生に納得させる良い機会のようなものです。しかし「言うは易し」で、実際に担当されている先生方の御努力は並大抵のものではないことが、本章の実践例から良くわかります。本章では、学内での実験・実習、実験・実習での個別対応、学外での実習に分けて、その実践例が紹介されています。

### 授業内での実験・実習

(17年度)

#### ○理科実験に接する機会を提供する

・ただ講義するのではなく、学生が理科実験に接する機会を提供するため、化学系理科実験実習室で実験の授業を行った(1回説明で、残りの3回は実験)。

(18年度)

#### ○自己完結型の実験の組み合わせ

・授業科目は講義形式であるが、運動学は動きを対象とする実学的要素が多いので1回で終了する自己完結型の実験を組み合わせている。特に、3時間目であること、理論と実技のギャップを埋める作業として自分自信の実験データを用いることで興味を持たせる工夫をしている。・身近な話題や単純な動き(ex.歩く、跳ぶ、泳ぐ)の中から、歩数(ストローク数)や歩幅(ストローク長)が条件を変えることによってどのような法則性や共通点があるかを自分自身で測定、整理、考察させる課題を多くした。

### ○実験手法の効率化

・機材の導入。実験手法の「手抜きではない」効率化。質的な向上

### ○予備実験と維持管理

・酵素活性が丁度測定可能な範囲になるよう、予備実験を何度も行った。使用する装置が正常に働くための維持管理に努めた。

### ○実験の前に演習問題で内容の理解

・実験内容によってはそれに関連した演習問題をあらかじめ課して解答させ、より内容の理解を確かなものとした上で実験実習に取り組めるよう工夫した。

### ○学生実験だけで通す

・毎回、学生実験で 14 週通しました。材料を学生の人数に対応した数をそろえるのは大変です。準備も大変です。水曜日に愛教大におもむき、木曜日の実験準備をととのえました。担当のK先生のお骨おりで、何とか実習を 14 週続けることができました。ポケットマネーもずいぶん使いました。

## 実験・実習での個別対応

(17 年度)

### ○個別指導に時間を取る

・実技的な内容では、できるだけ個別指導の時間を多く取るようにしている。

### ○一人一回以上はマンツーマン

・制作中は授業内に一人一回以上はマンツーマンで指導出来るようにする。課題の関係で、制作は美術実習棟を使用する。

(18 年度)

### ○実験レポートの書き方を指導する

・各実験毎に、レポートを提出させ、その書き方や内容についてコメントを付けて返却していること。

### ○心に残る実習

・心に残る実習・演習から、知的好奇心が呼び起こされ、調べ学習に続く自主的学習ができることを目指し、学生の反応を常に気にしながら 15 回を組み立てるようにしています。

## 学外での実習

(17 年度)

### ○学生と一緒に出かける

・三好町など近隣の幼稚園や保育所に学生と一緒に外へ出て保育観察を行ったり、できるだけ実践と関わるようにしている。

(18年度)

### ○博物館で授業をする

・この分野の授業内容で教育効果を向上させるためには、実物の自然、実物の標本、多くの教材を学生に観察させる必要がある。そのため、毎年自然史系博物館で一部の授業を行っており、学生にも好評である。

### ○野外での学習

・野外での授業は地学の重要な特色である。ありのままの自然に触れ、それを科学的に見る眼を養うことができるよう、野外での学習をできるだけ内容の濃いものにするよう努力している(そのために一部の学生から内容が多すぎるという意見が出たのかもしれない)。

### ○見学先を下調べさせる

・野外見学先について、あらかじめ各学生に分担させて下調べをさせている。それは集めて「巡検資料」の形で印刷し授業時に配布している。現地ではまず下調べを行った学生が説明をし、その後教員が補足説明を行うなど、事前準備から現地見学まで学生の参加度を高めるよう意識している。

## 第5章 教育現場に密着した工夫

本章まで読まれた方はお気づきのように、他のカテゴリーの下に採られた改善実践でも「教育現場に密着した工夫」を提言されている方が何人かありましたし、本書で採用しなかったものの中にもあります。ここでは特に、それをメインとした授業改善の工夫を少数ですが採り上げてあります。

(17年度)

### ○模擬授業をする

・算数科の授業法とともに具体的な指導技術を身につけさせるため、授業の半分は模擬授業、プレゼンの形式をとった。この形式では、学生への評価を瞬時に行う必要があり、動機付けを常に図った。

### ○地域から学習する

・社会科が目指すものと教育現場の現状を踏まえて授業を組み立てたつもりです。特に、実際に学生を地域に連れ出すこと、そしてそこで地域の人から話を聞いたり、体験活動をするを大切にしました。外に連れ出した授業は次のとおりです。愛教大キャンパス内で歴史の痕跡を探す(地名、井ヶ谷古窯跡とその出土品) 小堤西池のカキツバタを守る会の人のお話を現地で聞く。北っ子の森と岩ヶ池を訪ね、教材化を考える。ブドウ栽培農家を訪ねる。(袋がけ体験とブドウ栽培農家の工夫・苦労について聞く) 東海道筋の史跡から、地域の教材化を考える。(今岡町) 地域の人に教室に来てもらった授業も考えて行く必要があると思いました。

### ○小学校の理科実験を体験

・理科研究の授業では、授業の準備や後かたづけに時間をかけ、まず、化学マジックの演示により受講者の興味を喚起し、ついで受講者に小学校の理科実験を、背景の理論の解説とともに必ず体験(時間のほとんどを使用)してもらっている。

### ○現場に関する学生の感想を大切にす

・できるだけ、①現場の授業記録(VTR)の視聴とそれを基にした講話や学生諸君の感想を大切にす、また、②学生諸君の子ども頃の体験を想起させて、この教科での体験を通しての学び・育ちの重要性について講義している。ただ、②については、一部の学生からではあるが、「プライベートなことにつこんで欲しくない」とのアンケート結果も出た。従前の学生には無かったことであるので、苦慮・配慮しながら授業を進めている。

### ○教育実習を研究や実践に活かす

・学生はすでに実習をすませていますので、そうした経験の中で問題を見つけ、研究か保育実践に活かされるようにしました。グループ学習でかなり意欲を引き出せたと思います。

(18年度)

### ○現場の最新の情報を入手する

・教育現場の最新の情報を入手するように努め、学生へ課題や活動の必要性をていねいに説明している。

### ○現場の教員として働くことのイメージ

・現場の教員に対する現職教育、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員での教員対象の研修等で利用している資料を配布したりしながら、卒業後に現場の教員として働くことをイメージできるような授業を行っている。3年生までは基礎的な授業をしてきたが、4年生対象の授業では、レベルを落とした話はしないようにしている。

### ○指導者養成を意識する

・指導者養成のための専門的スキルを指導する場と考え、生徒に正しい知識・理解、スキルを指導できる能力を習得させるようにした。「なぜ、何のためにそうしなければならないか」「正しい方法はどうか」「描くだけでなく読み取ることもできるようにする」などを意識的に問いかけるようにした。机間巡視をきめ細かく行い、断片的な知識やスキルにとどまらず、演習全体の段取りや正しいスキルを身につけるための姿勢等の修正を行った。さらに、評価者としての視点も明確にし、目標・指導・評価が一貫して展開できるように意識づけるようにした。

### ○臨床経験をつむ

・様々な研究論文等の文献的情報を把握すること、また、養護学校を中心とした教育現場の現状等をよく踏まえること、日ごろから(学生とも)多く発達支援の実践に携わりながら臨床経験を積んでいくこと。

## 第6章 初年次教育的提言

本学における初年次教育はまだ試行の段階で、ごく少数のクラスで「初年次導入演習」が実施されているだけ(21年度現在)ですが、19年度までの授業においても、初年次教育的な内容を盛り込んでいる先生方が居られ、ここではそれらの工夫を本学全体への「提言」と受けとめて、最終章としてまとめてあります。

(18年度)

### ○自分自身で考えさせよう

・ how to 的思考に陥らない。学生が自分自身で考える機会を多くする。

### ○他人の立場にたって、自分の考えを見直させよう

・学生さんに、他人の立場にたって、自分の考えを見直す機会を提供したいと考えている。そのために、どちらが正解というのではなく、物事の両面から書かれた資料等を提示し、意見の食い違いがどうして生じるのか、その際には、どのようなことに考慮して、判断すべきなのかを考えさせるようにしている。

### ○大学生として、最低限の自覚を持たせよう

・学生に、大学といえる大学での大学生として、最低限の自覚と覚悟を持ってもらうようにしている。

### ○個性を活かそう

・学生の個性を生かしたい。  
・個性的な学生を育てたい。

### ○主体的に勉学させよう

・大学の勉学とは、主体的に行う必要があるということを学生に認識してもらうようにしている。

### ○討議やプレゼンテーションのしかたを教えよう

・討議のしかた、プレゼンテーションのしかたを丁寧におしえるようにつとめている。

### ○文章として自分の考えをまとめる力の育成しよう

・文章として自分の考えをまとめる力の育成を本授業の目的としている。そのため、授業者自らが論文発表をする者であることが必要であると思っている。授業で配布する資料はしたがって授業者の論文であり、過去の受講生の論文であったりする。広すぎたり大き過ぎるテーマは論旨が不明瞭になりやすいため、はっきりとピンポイントで何について調べることに社会的意味と自己の調べ甲斐があるのかを理解してもらいたい。

(19年度)

### ○批判的に取捨選択しながらノートを取らせよう

・初年次教育と関連して、学生に不足していると思われる能力や態度として、「(機械的に黒板の内容を写すのではなく)批判的に取捨選択しながらノートを取る」「(教師に与えられた課題をこなすのではなく)他者に対して表現する」などの力がある。「平和と人権展開2」でもこうした力を養うため、「調べて書く」技能の習得の一環として、「ドキュメンタリー番組を視聴しながらメモを取る」「コメンテーター制を設けて学生同士の議論を促進する」などの工夫をおこなった。

### ○学生を信頼しよう

・独自に工夫ということでもないが、心の奥底では学生を信頼したい。その信頼感を学生が感じて欲しい。愛教大の学生は謙虚であり、学生自身の自己評価よりは頑張っていると思っている。学生を信頼する姿勢こそ大切だと思っている。